

県政ネットワーク

県政ネットワーク 発行者発行人 田中ただみつ
所在地 〒633-2166 宇陀市大宇陀迫間5 1-3
電話 0745-83-1188 F A X 0745-83-3272
携帯電話 090-1440-3444
ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~tadamitu/>
E-mail tadamitu@sweet.ocn.ne.jp

9月議会でも一般質問

9月29日

では、大人が二人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となつて、54・6%と深刻

な状況であることが明らかになっていきます。経済的な困難を抱える家庭の子どもは、十分な教育が受けられないことで、貧困の世代間連鎖につながる問題が指摘されています。

厳しい環境が子どもの生活や成長に様々な影響を及ぼします。その子の将来が、生まれ育った家庭の状況に左右されてしまうことは、決してあってはならないことであり、解決の急がれる課題です。

このような状況を受けて、国においては、平成26年1月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行され、8月には施策の基本的な方針を示した大綱が策定されました。法では、都道府県に子どもの貧困対策に関し、地域の実情に応じた施策を実施する責務があり、「都道府県子ども貧困対策計画」を定めるよう努めることとされています。

県においても、本計画の策定に向けて検討を進めていると聞いています。県の実情に応じた効果的な対策を進めていくためには、子どもが置かれている貧困の状況を十分調査し、課題を明らかにして、施策につなげていく必要があると思います。

そこで、こども・女性局長にお伺いします。県として経済的に困難な状況にある子どもの実態をどのように捉えておられるのでしょうか。また、実態を踏まえ、今後、どのような施策が必要だと考えておられるのかお尋ねします。

答弁 《こども・女性局長》

子どもが経済的に困難な状況にあることは、将来の社会を担う人材の育成の観点から、解決しなければならない喫緊の課題であると認識しています。



そこで、県では実態を把握するため、昨年度、「奈良県ひとり親家庭等実態調査」を行ったことに加え、本年、経済的困難を抱える具体的な事例の調査を実施しました。これらの調査から、ひとり親家庭にあつては、親の約9割が就労しているものの、年収が200万円以下の子どもの世帯が約半数を占めていること、子どもと関わる時間が十分取

れていないこと、子どもの学習や進学に不安があること、また、経済的困難な状況にある子どもの抱える問題としては、大学等への進学率において、その他の世帯と大きな格差が生じていること、自己肯定感の不足等、心理面への影響があることなどが明らかになりました。こうした実態であることを踏

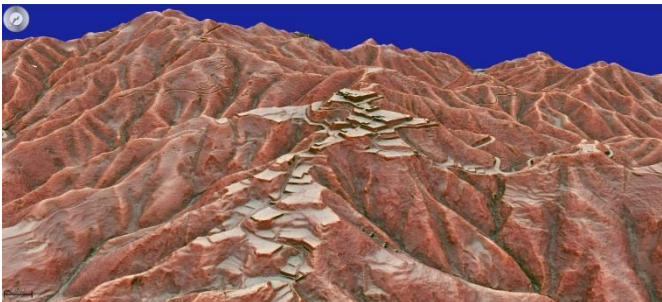
まえ、今年度に立ち上げました学識者等による「奈良県子どもの貧困対策会議」において、子どもの学力の向上や生きる力の育成等を目的とした「子どもへの支援」、親の就労や生活支援等を目的とした「家庭への支援」、及び「福祉・教育行政と地域の連携の推進」等の観点から、幅広く施策の方向性について検討を行っています。

今後、「子どもの貧困対策会議」の意見を踏まえ、庁内の福祉・教育等の関係課からなる連絡会議で、部局横断的に議論を行い、経済的に困難な状況にある子どもへの具体的な支援策を取りまとめた県計画の策定を図ってまいります。

質問 歴史文化遺産の活用について

「松風騒ぐ丘の上 古城よ一人何しのぶ」ご存知、三橋美智也の有名な「古城」の一節です。その二番は、「崩れしままの石垣に 哀れを誘う病葉や矢弾のあとのここかしこ ああ往古（むかし）を語る 大手門」となっています。一世を風靡したこの歌詞は、矢弾の跡こそありませんが、宇陀松山城を歌っているのではないかと思われるほどで、心にしみてまいります。

さて、先日、奈良新聞を見ていますと、高取城のレーザー測量による立体地図が載っていました。最新の技術は、高取城の基礎部分がどこにあるのか、明確にしています。県立橿原考古学研究所が、歴史研究の一環として作成されたもので、新聞だけではわかりにくいので、現物をお借りしてきました。



民間の航測会社がヘリコプターから測量し、鳥瞰図として表現。高取城。平らな部分が敷地と思われる。

ヘリコプターからの調査でこのように明確な姿を現してきます。まさに一目瞭然です。

再び、話題を地元に戻しますが、秋山城として築かれた城は、松山城となり、元和元年（1615年）、大坂夏の陣において豊臣方に内通したとして、徳川から、城主の福島高晴は改易され、城も小堀遠州らによって破城となつてしまいました。

全国的に珍しい破城という運命をたどった松山城がどのような基礎部分を

2 築いていたのか、そして、どこまで、どのように打ち壊されたのか。

一般の人たちが、こんなにわかりやすい写真が見られるのであれば、レーザー測量による立体地図は、歴史をたどる観光客にとつて、よりわかりやすく、興味や関心を引き起こす有意義なものになると考えます。

宇陀市は、文化庁による指定史跡である松山城の歴史価値についての研究をしていますが、このようなレーザー測量による立体地図は、その研究を推進する力としても大きな役割を果たすことでしょう。

そしてもう一ヶ所、宇陀市榛原澤には、歴史に名をとどめる澤城があります。松山城と同じく織田と徳川につながる時代に、激しく厳しい時代変動の波をかぶりました。澤氏であった城主のあとを受けた城主高山飛騨守の息子・高山右近は、今の時代に語り継がれています。

澤城主として洗礼を受けた高山飛騨守、その息子として、同じく洗礼を受けた高山右近。城を追われ、宗教を改めるようにと伴天連追放令（ばてれん、ついほうれい）をうける中で、高山右近はキリシタンとしての生涯を貫いたとして、カトリック教会の聖人として列福する動きがあります。すでに国内では、聖人として認めようとの合意を得られ、現在、ローマ法王庁に申請されていると聞き及びます。

高山右近の足跡はあちこちにありますが、将来、宇陀市澤城は、幼少期を過ごし洗礼を受けた土地として、キリスト教徒の巡礼地になっていくことでしょう。

澤城は、現在土の中、山の上の木々の下に眠っています。山頂に上り詰めても、残念ながら目視では部分的にも確認できません。巡礼者や観光客が来ても、物語を聞くだけのことになりかねません。レーザー測量による立体地図を用い、視覚に訴えることが可能なら、巡礼者や観光客が、立っている場所、ここが城跡なのだと理解ができることでしょう。

まさに地域の観光資源の開発につながり、大きな効果をもたらすことになると思います。

先日、「奈良県大芸術祭」第1回文化セミナーが開催されました。そのフォーラムで、講師を務め知事とトークセッションをされたデービッド・アトキンソン氏は、観光資源を訪れたとき、そこにあるものが何なのか、どのような事があったのかを判りやすくする事が大切だと語っておられました。なるほどと、観光客にわかってもらえような、観光地を作ることが大切です。このような考え方を推し進めるためにも、うずもれた観光資源を顕在化させることが大切です。

今、地元宇陀の史跡を例としてご紹介しました。しかし、県内には地（つ

ち）にうずもれた沢山の史跡があることと思います。例えば、パネルで紹介したような史跡の航空レーザー測量による画像を用いて理解を促進することは大変有効だと考えます。

そこで、宇陀市をはじめとして、県内の歴史的文化資源をどのように活用しようと考えているのか、地域振興部長にお伺いします。

答弁 《地域振興部長》



なことと認識しています。

議員お述べの宇陀松山城は、国・県の補助のもとに、宇陀市、地域団体において城跡の保全や活用に取り組まれているところです。こうした市町村や地域の皆様の主体的、計画的な取組は、地域振興やまちづくりを推進するうえで、たいへん重要であると考えており、今後とも、文化財を核とした地域振興に資する市町村の取組に対して、県としても史跡等整備活用補助金の活用などにより支援してまいります。

次に、澤城については、キリシタン大名として有名な高山右近が少年時代を過ごし、洗礼を受けたところと承知しています。この澤城を一例として、県内の歴史的文化資源の中には、まだまだ広く知られてはいませんが、それぞれの地域で大切に受け継がれてきた「地域の宝」といえる多くの歴史的文化資源がございます。

県としては、そうした歴史的文化資源を含め、すなわち宇陀松山城や澤城のようなケースを含め、わかりやすい画像や地図を使った手法を用いたり、また、複数の素材を有機的に結びつけ、魅力的なストーリーを付加することなどによって、より多くの皆様に関心を持っていただく機会を創出していきたいと考えています。具体的には、県では来年度に向けて、「文化資源データベース」ホームページを作成し、歴史的文化資源について情報発信していくことを検討しています。その際には、議員ご指摘のように土に埋もれた歴史的文化資源、その結果広く知られていない歴史的文化資源にも光を当てながら分かりやすい紹介に努めるなど、県内にある文化資源の最大限の活用に向けさまざまな取組を進めていきたいと考えています。

質問 鳥獣害対策についてお伺いいたします。

「農業も 猪 鹿 鳥に負け 卒業す」（室生 山口様）この句は、室生の方が、市内で発表されたものです。花札賭博のことではなく、鳥獣害によって農業をやめることになった、悔しい心境を歌ったものです。

山間部の方々は、野生の動物たちによって、従来から様々な被害を受けてき

ました。

奈良県は、私が議員として活動するようになってからいくつもの鳥獣害対策を講じてられました。そして、対策が一定の実績を生み効果を挙げけたことも確かであり、承知しているところ です。

しかしながら、議会で質問をするので、農家の方々に、「あなたにとつて一番切実な課題は何か」と調査したところ、一番多かったのは鳥獣害対策でした。

これらの写真は、私が撮影したものです が、我がものの顔で国道を横切るサル集団、鹿や猪の被害などです。農家の方々に よると、これらの動物による被害額の大小 というよりは、これだけ丹精こめて作っ ているのに、収穫前に被害を受けた事への激しい怒りであり、対策を求める 厳しい言葉であります。



「野生獣が来なくなった」や「被害が少なくなった」の言葉が少ないのはなぜなのでしょう か。

宇陀地域内で鹿に出会っても、奈良公園の鹿と同じように人間を怖がりません。襲つていくと逃げますが、もはや住民は恐れるに足り ずという構図になつてしま っているのではないでしょ うか。



群れをなして、国道を横切り小猿を背負つて、道のわたり方を教えているよ うな姿に出くわすと、個人の力ではどうしようもない無念さを感じざるを得 ません。猿の撃退対策は十分なのでしょうか。

いまや地域集落と野生の動物たちとの戦闘で人間のほうが疲れを感じてい るといった状況ではないでしょうか。

野生動物たちに人間社会は恐ろしいから近づかないと、思わしめる対策が、 新たに必要なのではないでしょうか。

今日までの、対策を継続しつつ、新たな手法を築くことを求めたいと思いま すが、農林部長のお考えをお聞かせください。

答弁 《農林部長》

県では、従来から総合的な鳥獣害対策として「被害の防除」「人材の育成」「生息環境管理」「個体数調整」を4本柱とし、地域での取組を支援してき たところです。そのうち、「被害の防除」については、被害防止柵を設置し 野生鳥獣を農地に侵入させない取組に加え、かかしの設置、爆音器やセンサ ー付きライトで驚かすなど、野生鳥獣を威嚇して近寄らせない取組を行つて



参りました。

しかし、これらの威嚇方法も、新しい環境に対する野生鳥獣の警戒心から当初は効果を發揮いたしますが、次第に鳥獣が馴れることにより、その効果は減少してきます。そのため、威嚇効果を持続させるには、収穫前の鳥獣害に遭いやすい時期に限定しての使用、複数の方法の組み合わせなど、使用者側も工夫が必要となっています。こうしたなか、県では、今年度から新たに情報通信機器を使って野生鳥獣の行動を夜間でも自動的に把握して捕獲する装置など、ＩＣＴを活用した効率的な捕獲の普及や、ニホンジカの捕獲が進まない地域での県自らによる捕獲の実施、網猟・わな猟免許の取得年齢の引き下げによる捕獲の担い手確保に取り組んでいるとございます。

また、県内大学生からの政策提案を公開コンペで審査する「県内大学生が創る奈良の未来事業」で、今年度、奈良女子大学が提案いたしました「女子大生ハンティングサークル（狩りガール）」が最優秀賞を受賞いたしました。

この政策提案は狩猟産業の振興を目的としたもので、女子大生及び県職員でプロジェクトチームを立ち上げ、来年度の事業化に向けた検討を始めたところでございます。



鳥獣害対策は集落ぐるみで地域の実態に即した総合的な取組が基本であります。これまでの４本柱の取組を粘り強く継続しつつ、実態に応じて先に述べましたような新たな取組を実施することにより、鳥獣害対策のなお一層の推進に努めて参りたいと思っております。

質問 道路維持管理について

道路の法面の草刈について県土マネジメント部長にお尋ねいたします。時代は高齢社会であることは、万民の認めるところです。そして、その影響は、さまざまところに現れています。今までであれば、通常のこととしてできてきた作業が困難になった時代でもあります。

たとえば、手作業の農作業は機械化され、若者のいなくなった農業は機械を頼りとしつつも、斜面の草刈に手を焼いている状態です。戦後の時期には、肥料に使うべく草が重要視され、刈上げと称して、草を刈る権利を主張することもあったところですが、今、ご高齢の農家の方にとっては、草刈が重荷となってしまうしました。

草刈りをしないままで放置することは、そこが害虫発生場所となり、害

虫が作付けられた農産物を食べに行くものですから、せっかく作った農産物の品質の等級を下げることにつながります。民有地間での話は別ですが、道路、中でも県道や国道の法面を管理するのは奈良県で行うのが道理だと思います。

宇陀地域は、山間部が多く、平坦な場所ではありませんから、道路の横には法面を持っているところが多くあります。そして、その法面の中には、斜面が急で高い箇所があり、そこに生える雑草対策が悩ましい課題となっています。

県土マネジメント部によって、道路面管理のために草刈が行われてきたことは評価しているのですが、高齢化社会であることを踏まえ、国道や県道において、特に、今申し上げた法面の高い場所についての草刈の管理のあり方を、どのようにお考えかお伺いいたします。

さて、宇陀地域のインフラ整備についてですが、各所改良を

続けて頂いています。しかし山間部の広い面積を受け持つ宇陀土木事務所は、まだまだ県土発展に寄与してもらわなければなりません。

県道吉野室生寺針線の室生地地区、県道榛原菟田野御杖線の御杖村桃俣、国道１６５号の萩原交差点の改良など継続中の箇所は、引き続きよろしくお願い申し上げます。

また、隣接県である三重県と関係する県道名張曾爾線、国道３６８号の改良箇所は、名張市や松阪市そして三重県の努力を切望しているところです。三重県では交通難所として高須の峰の近く松阪市飯南町上仁柿（かみにがき）あたりで上仁柿バイパス工事がなされていると聞き及びます。現道の狹隘部分がなくなれば、伊勢市から御杖村への交通は見違えるようになることは明らかです。奈良県と三重県の新しい交通、輸送ルートが出来上がることでしょう。国道３６８号改良早期完成を目指し、また、関西屈指の渓谷である香落溪谷のスムーズな通行を目指し、地元両村役場も努力をしており、奈良県の協力もあいまって、三重県の推進を願っています。

新しい道路の整備については、今日までの姿を見ますと、要望や陳情を始めてから建設までに多くの期間を必要としていました。国道１６５号の桜井市立朝倉小学校前からその先である東方への道路を拡幅し、片側二車線道路として三重県側へつないでいくことは、これからの中南和活性化の基礎部分に関わるテーマであると思っています。

香芝市から桜井市にいたる都市計画道路中和幹線は、地域の生活や、観光客への利用できる道路として大きな役割を果たしていることは間違いありません。

そして、この新しい提案は、南阪奈道路から奈良県内への流入のみならず、東方、名古屋三重県方面から奈良県への観光客誘致をする上でも大きな役割を果たし、中南和の物流を促し経済活動を活発化させることになるでしょう。この提案について、ご検討いただくよう要望いたします。

答弁 《県土マネジメント部長》

本県が管理している道路は、国道は６８６km、県道が１３０１kmで、合計



１９８７kmにもなります。県では、これらの道路が本来の機能を發揮し、利用者の皆様方に安全に安心してご利用いただけるよう、道路管理者の責務として、巡回、清掃、除草・剪定、除雪、補修など、道路の維持管理に日々取り組んでいるところでございます。

議員ご指摘の「草刈り」は、主として、路側の雑草が繁茂することにより通行車両からの視認性が妨げられ、交通が危険な状態に陥らないよう行うものでございます。

このため、年間に、概ね１２００km程度の除草を実施しておりますが、路側の巾概ね１m程度の範囲で行うこととしており、道路法面全体には行き届いていないのが実態です。

県といたしましては、厳しい財政状況も踏まえすと、地域のご要望に基づく道路法面の除草につきましては、地域のお住まいの皆様方のご協力もいただかなければならないと考えており、平成１８年度から、地元自治会等の団体が主体的に行う道路の除草などの活動を支援するため、県が除草活動経費を助成したり、参加者の保険加入を肩代わりするなどの取り組みを行う「みんなで・守ロード事業」を推進しています。ご協力いただける団体も、平成１８年度のスタート時点では、３０団体でございましたが、今年度は、９７団体に増えております。特に、宇陀土木事務所管内におきましては、２４の団体にご参加いただいております。地域の皆様方に深く感謝をいたしております。

道路管理者としての責務を果たしていくことは当然のことでございますが、近年、公共サービスの提供のあり方につきましては、地方の厳しい財政状況を背景に、行政・ＮＰＯ等の各種団体・地域住民等との協働や役割分担につきまして、新しい模索が進められております。道路の分野におきまして、地域・地域の実情につきまして、よく把握させていただき、必要な予算の確保に努めますとともに、地域住民の皆様方との協働による維持管理につきまして、ご理解・ご協力をいただきながら、様々に創意工夫を凝らしまして、その推進を図って参りたいと考えております。

質問 教育に関して

広報うだ８月号とあわせて「うだ市議会だより」を読みました。その記事によると、学校の職員会議についての質問が行われていました。

職員会議をテーマとして取り上げられる機会はあまり無いように思いますので、市議会での議論と内容は異なりますが、私の私見を申し上げます、教育長にお尋ねいたします。

職員会議は、校長をはじめとする学校運営者、教員、職員によって行われているものだと思っています。しかしながら、地域の人、保護者、関係者の中においても、職員会議の行われている実態やあるべき姿について理解が十分でないのではないかとの思いを抱いています。

生徒の指導、教職員の人事管理、建物施設備品等における管理をはじめとする学校の運営、教科の運営、などが教育委員会への報告はなされていると



は思いますが、保護者や地域の中へ語られたり、学校の運営が地域の中で十分に理解がされているとは思えません。

子どもたちに事件や事故があるたび報道される学校の姿を見るにつけ感ずることは、映し出されている姿の学校の運営は、いかにも閉鎖された存在であるとの印象を受けます。

いったい職員会議では何をテーマに、どのような会議がなされているのか、生徒たちと直接向き合っている先生の教育課題は学校内で共有され課題解決に向けての協調がされているのか不明です。

現状の学校と保護者の関係は、モンスターペアレントと呼ばれている一部の方を除き、ほとんどが、先生の指導を素直に受け入れているという形ではないでしょうか。

私は、学校の実情や先生の努力する姿を、校外にも客観的な目を通して理解してもらうために、また、職員会議がマンネリにならないよういまいし職員会議のあり方を検討するのがよいと思っています。

すなわち、学校評議員等、今日すでに学校運営に協力をして頂いている関係者がおられるのですから、そのかたがたに職員会議の傍聴を認めることをされるのが良いと思っています。

保護者が直接職員会議の傍聴を認めるところまで、踏み込む必要性はないと思いますが、少なくとも日常、学校に関心を持つ人たちは、教育の振興に寄与される気持ちを持っていると思います。具体的な形で、教育に関心があり社会貢献をしたいと思っておられる方々もいると思います。

また学校の姿を理解してもらうことによって、「学校で行うべき教育、家庭や地域社会で行うべき教育」の役割や方法、協働などについての具体的なものが生み出されてくるようにも思えます。

そこで、教育長にお伺いいたします。職員会議の中に日頃より学校運営に協力している関係者の傍聴を認めていくべきだと考えますが、教育長の所見

をお伺いいたします。



答弁《教育長》

議員お述べの職員会議は、学校教育法施行規則において、校長が主宰し、校長の職務の円滑な執行に資するためのものであると定められており、学年や教科等を超えて、教職員間の意思の疎通、共通理解を促進する場として重要な役割を担っています。また、職員会議は、校長の補助機関として教職員の合意を形成する場であり、密室での協議との批判を受けることのないよう運営されるべきものです。より開かれた学校づくりを推進する上でも、学校評議員など日頃より学校運営に協力いただいている関係者に職員会議の内容を知っていただくことも必要であると考えますので、今後、校長会と協議していきます。ただ、職員会議においては、特定の児童生徒の情報が識別されるなど、プライバシーに関わる内容が少なからず取り扱われるため、学校が傍聴を認める場合は、個人情報保護の観点から限定的になるものと考えています。

県議会報告

決算委員会

(10月14日～20日)



10月20日委員会総括質問

平成26年度会計の審査をする決算委員に選ばれました。9月議会に決算報告を上程、閉会後に審査された。

最近の傾向は、補正予算が二月議会に提出され、次年度に繰り越されることが多いため、繰越部分が増えている。

また、災害復旧工事中の再罹災であったり、工事期間の延長等順調に進まなかったところもあった。田中惟允委員は、徴税、財政について知事に質問し、教育長へは、私立や公立学校への補助金について質問した。委員会では、決算は認めることに決まった。



多田・産廃最終処分場対策

↑写真。宇陀市室生多田に作られた産業廃棄物最終処分場は、今もなお地域の方々にとって心配のもとです。県議会の議員控室で地元と、市、県の担当者が協議しました。水質の確保対策について県の報告と、地元は要望を話し、議論しました。今ある浄化槽が機能していない為、恒久的に水質確保をどのようにするかが、課題です。



下写真、夏、静岡県で行われた全国議員親善野球大会に出場。ライトゴロでアウト



へき地教育研究振興大会

右写真は、10月30日に行われた、へき地教育研究振興大会(月ヶ瀬)に、参加した。

関係する先生方が、授業参観を行い、小規模学級の授業の進め方について、学びあい意欲の向上につなげる機会にするとともに、へき地の子どもたちが教育の機会均等を失わないようにとの願いを込めています。

がん議員連盟

がんの検診を受けましょう。がん早期発見に努めましょう。早期発見で、がん治療は大きな効果があります。県会議員の中にも、がん患者はいるのです。が、元気に活動しています。あなたも明るく元気よく。



10月3日大和郡山で